

令和3年度 事業計画書

公益財団法人 大阪府文化財センター

令和3年度 事業計画書

I. 埋蔵文化財調査事業

1. 調査事業

文化財の保存、活用を目的として、埋蔵文化財の発掘調査及び出土遺物の整理等を実施する。

(1) 大阪府域

①西日本高速道路株式会社 関西支社 新名神大阪東事務所が施行する高速自動車国道近畿自動車道名古屋神戸線（新名神高速道路）建設事業地内の調査

船橋遺跡〔枚方市〕 (報告書印刷)

②西日本高速道路株式会社 関西支社 新名神大阪西事務所が施行する高速自動車国道近畿自動車道名古屋神戸線（新名神高速道路）建設事業地内の調査

高槻市 成合地区〔高槻市〕	(試掘調査)	500 m ²
金龍寺旧境内跡（1）〔高槻市〕	(発掘調査)	7,300 m ²
金龍寺旧境内跡（2）〔高槻市〕	(発掘調査)	600 m ²
梶原古墳群〔高槻市〕	(発掘調査)	1,500 m ²
上牧遺跡〔高槻市〕	(遺物整理)	
梶原南遺跡（1・2）〔高槻市〕	(遺物整理)	
金龍寺旧境内跡（2）〔高槻市〕	(遺物整理)	

③大阪府都市整備部 枚方土木事務所が施行する東部大阪都市計画都市高速鉄道 京阪電気鉄道京阪本線（寝屋川市・枚方市）連続立体交差事業地内の調査

伊加賀遺跡・伊加賀古墳群〔枚方市〕 (発掘調査) 550 m²
伊加賀遺跡・伊加賀古墳群〔枚方市〕 (遺物整理)

④大阪府都市整備部 八尾土木事務所が施行する寝屋川水系改良事業（一級河川恩智川法善寺多目的遊水地）地内の調査

大県郡条里遺跡（7）〔柏原市〕 (遺物整理)
大県郡条里遺跡（8）〔柏原市〕 (発掘調査・遺物整理) 3,150 m²
大県郡条里遺跡（9）〔柏原市〕 (発掘調査・遺物整理) 2,000 m²

⑤大阪モノレール株式会社が施行する（仮称）瓜生堂車両基地整備事業地内の調査

西岩田遺跡〔東大阪市〕 (発掘調査) 1,300 m²

⑥豊中市が施行する（仮称）庄内さくら学園整備事業地内の調査

庄内遺跡〔豊中市〕 (遺物整理)

⑦門真市が施行する門真市幸福東土地区画整理事業地内の調査

普賢寺遺跡〔門真市〕 (遺物整理)

⑧民間事業者が業務代行者として施行するJR島本駅西土地区画整理事業地内の調査

尾山遺跡〔島本町〕 (遺物整理)

⑨民間事業者が業務代行者として施行する北部大阪都市計画事業 成合南土地区画整理事業地内の調査

金龍寺旧境内跡〔高槻市〕 (報告書印刷)

⑩学校法人 追手門学院が施行する追手門学院総持寺キャンパス開発事業地内の調査

太田遺跡・太田廃寺跡〔茨木市〕 (発掘調査) 6,400 m²

⑪民間事業者が施行する堺市美原区黒山東事業地内の調査

黒山遺跡・太井遺跡〔堺市美原区〕 (遺物整理)

総事業件数 20 件

総調査予定面積 23,300 m²

(平成 28 年度 総事業件数 25 件 調査実施面積 31,317 m²)

(平成 29 年度 総事業件数 24 件 調査実施面積 30,836 m²)

(平成 30 年度 総事業件数 21 件 調査実施面積 59,103 m²)

(令和元年度 総事業件数 27 件 調査実施面積 54,931 m²)

(令和 2 年度 総事業件数 22 件 調査予定面積 45,672 m²)

（2）大阪府外

①和歌山市が施行する市民会館（仮称）市民文化交流センター建設事業地内の調査

和歌山城跡第 34 次〔和歌山市〕 (遺物整理)

2. 技術支援

大阪府外で実施されている下記の発掘調査について、調査主体である法人組織からの依頼に基づいて職員を出向させ、発掘調査の技術支援を行う。

- | | |
|---|-----|
| ①公益財団法人 かながわ考古学財団が実施する第二東海自動車道横浜名古屋線（新東名高速道路）建設事業ならびに関連事業地内の調査（平成 27 年度～） | 1 名 |
|---|-----|

II. 資料活用事業

文化財の資料活用を図るため、次の事業を行う。

1. 文化財講演会事業

(1) 文化財講演会

一般府民を対象とした講演会を開催する。講演会に際しては、諸団体や民間企業等との連携によって効果的、効率的に事業を実施する。

(2) 連携講演会・講座

公民館や学校法人等との依頼や連携による講演・講座等を実施する。

2. 現地説明会・現地公開事業

埋蔵文化財の発掘調査成果を報道機関等に資料提供し、地元住民をはじめ広く一般府民に公開し文化財保護の啓発を行う。また、現地説明会・現地公開では、地元小学校生徒の見学を促進するほか、発掘体験や遺物に触れるコーナーを設けるなど、子ども達にも発掘調査や歴史に興味をもつような工夫を行う。

3. 文化財体験学習事業

(1) 体験学習を通じての学校教育支援

小・中・高校が実施する職業体験学習等を受入れ、学校との連携を強め、教育の発展に寄与する。

(2) 発掘調査現場等の見学受け入れ

発掘調査や整理作業の現場を見学したいとの一般府民の要望がある場合、日時・場所を定めて現場等への見学を受入れ、埋蔵文化財調査の理解を得る。

(3) 子ども向け体験学習

各博物館を通じて、商業施設等において、子ども向けのワークショップを実施し、文化財に対する理解を促進する。

4. 文化財展示会事業

(1) スポット展示

発掘調査の最新成果等を地元市町村等の協力を得て、各博物館で適時展示、公開する。

また、展示内容に即した講演会なども企画する。

講演会等の機会を利用して、実物資料を間近に見ていただく機会を設ける。

5. 文化財広報事業

(1) 事業年報の編集発行

(2) ホームページによる情報提供

インターネットを通じて、当センターの発掘・調査、イベント、出版等に関する情報をいち早く一般に公開し、文化財の普及を図る。

6. 文化財資料収集整理事業

(1) 文献および文化財情報の収集・整理

一般府民の利用やセンター職員の発掘調査・整理、研究を進める上で有効な、文化財に関する報告書等の文献資料を収集・整理する。

(2) 文化財情報のデジタル化

これまで報告書に掲載された写真（主にカラー図版）フィルムの長期保存を図るため、スキャニングして画像データ化し、デジタルデータとして活用する。また、奈良文化財研究所が実施している「全国遺跡報告総覧」へ協力し、報告書データベースを提供する。

7. 文化財資料提供事業

(1) 発掘資料の出土品、写真、映画等の貸出

当センターが保管・保有する発掘資料（出土品、写真、映画等）を博物館及び出版社等関係機関からの要望に応じて貸出しを行う。大学生や研究者等の要望に応じて資料調査を受け入れる。

(2) 報告書等の配付

他の関係団体等に報告書等出版物を配付する。

(3) 図書の頒布

博物館図録等を来館者サービスの一環として、一般府民に頒布する。

III. 大阪府立弥生文化博物館事業

1. 展示公開事業

「日本文化の源流である弥生時代を通じて、日本文化を理解する」をメインテーマに、博物館法並びに大阪府博物館条例に基づき、展示公開を行う。

(1) 常設展示

「目で見る弥生文化」の導入ゾーン、「米つくりの始まり」「新しい技術の誕生」「ムラ・戦い・クニ」「弥生人」「交流」「死とまつり」のテーマゾーン、卑弥呼像を中心としたシンボルゾーンで、弥生文化をビジュアルに展示する。

(2) 特別展・企画展

新規の来館者の裾野を拡げるとともに、来館者の歴史文化に対する知的満足度をさらに高めるため、特別展・企画展を下記のとおり開催する。

①池上曾根遺跡史跡指定45周年、史跡公園開園20周年、大阪府立弥生文化博物館開館30周年記念 春夏季企画展「繁栄の池上曾根遺跡～拠点集落としての姿～」

ア. 開催趣旨

池上曾根遺跡は、弥生時代の拠点集落の新たなイメージを生み出す数々の成果を上げてきた。本年は、池上曾根遺跡が国史跡に指定されてから45年、史跡公園が開園して20年、弥生文化博物館が開館して30年となる節目を迎える。和泉市・泉大津市と協働し、周辺の遺跡も取り上げて、泉北の古代史に池上曾根遺跡を改めて位置づける展示会とする。保存活用計画があらたに策定されることも合わせて、今後の史跡整備と弥生文化研究を方向付ける一歩を踏み出したい。

イ. 開催期間 令和3年4月27日（火）～令和3年9月12日（日）

②大阪府立弥生文化博物館開館30周年記念 秋季特別展「（仮）近畿最初の弥生人」

ア. 開催趣旨

弥生文化のスタートは、本格的な農耕の導入という新しい生活スタイルだけでなく、信仰や社会のしくみの変化でもあった。その背景に西からの人の移動があったが、新しい文化はどうやって受け入れられていったのか。この移行期のあり方は地域によりかなりの違いがみられたことが改めて注目される。本展は近畿に軸足を置き、具体的な資料に基づきながら周辺地域と比較することで「最初の弥生人」の姿を追いかける。

イ. 開催期間 令和3年10月9日（土）～12月12日（日）（仮）

③冬季ミュージアムギャラリー「創作展いづみー和泉市文化協会美術部門十部門の粹ー」

ア. 開催趣旨

地元和泉市において文化活動に積極的に取り組んでいる和泉市文化協会の美術 10 部門（押し花、木彫り、写真、書道、水墨画、ちぎり絵、陶芸、日本画、俳画、洋画）の会員の粋を集めた創造的な作品展示を博物館で開催することにより、地元の皆様をはじめ多くの方々に美術作品を鑑賞していただき、地域に開かれた親しまれる博物館として役割を担っていく。

イ. 開催期間 令和4年1月22日（土）～3月21日（月祝）（仮）

（3）スポット展示

①スポット展示

大阪府内における発掘調査最新成果の展示公開を市町村教育委員会の協力を得て適時実施する。

②弥生プラザ

弥生時代遺跡の速報展示コーナー「弥生プラザ」の展示替えを大阪府内の市町村教育委員会の協力を得て実施する。リーフレットを作成、配布する。

2. 講演会事業

（1）特別展・企画展関連の講演会

特別展・企画展のテーマに沿って、来館者の歴史文化に対する関心を高めるなど、生涯学習のきっかけづくりのために、講演会を開催する。

（2）「木曜大学」などの講座

木曜大学・木曜大学大学院、論壇デビュー等の講座を開催する。

（3）弥生時代講座

弥生時代の研究グループ「近畿弥生の会」と連携し、弥生時代の講座を実施する。

3. 「府民が参加する博物館」事業

（1）やよいミュージアムコンサート

「音楽のきこえる博物館」のコンセプトのもとに、エントランスホールを活用して、子どもから高齢者までが気軽に参加できるクラシック、ポピュラー、邦楽等さまざまなジャンルのコンサートを実施する。

（2）ミニギャラリー

府民の創作活動を発表する場として、エントランスホールを活用し、絵画、写真等の作品展を行う。

(3) 絵画コンテスト

当館を身近な存在として捉えてもらうため、弥生時代にちなんだテーマをもとに小・中学生を対象に作品を公募し、優秀作品の表彰・展示を行う。

(4) ボランティア活動および研修

講演会・ワークショップ・体験学習・出前授業等の事業への支援、年間スケジュールや各展示趣旨の翻訳などの博物館環境整備への支援などを通して広く府民に当館事業に参加してもらうため、継続して学生を含めたボランティアを募集する。なお、館活動を支援するボランティアに対しては、随時研修を行う。

4. 「博物館 in school」事業－博学連携事業

(1) 小中学校の団体見学受け入れ

各学校との連携により、ワークシートの利用を呼びかけ、要望に応じて当館の学芸員や教育専門員が展示解説を行い、展示室での生徒の学習を支援する。

(2) 体験ゾーンの活用

弥生文化に親しみをもってもらうため、小中学生をはじめとする団体利用者に対し、屋外に設置した竪穴住居の復元施設の活用を推進する。

(3) 出前授業

幼稚園から高等学校にいたる学校等を対象に、弥生文化をはじめとした歴史や博物館に、興味や親しみをもってもらうため、教育専門員・学芸員が学校等に出かけ、体験学習等を行う。

(4) 中学生の職場体験学習

将来希望する職業を実際に体験し、働くことを学び、将来の職業選択の参考とする体験学習の支援を行う。

(5) 大学生博物館実習

近畿圏内をはじめとする各大学からの依頼を受けて博物館実習を行う。

(6) 博学連携セミナー

教員対象に授業などの学習活動に活かせる内容の特別展解説、テーマ講演等を行う。高校生を対象に長期休暇期間中に歴史・文化等に親しみ、興味をもつ機会となる内容のセミナーを実施する。

(7) 教員の研修、研究団体の受け入れ

教員や研究団体等の研修を博物館に誘致し、連携を深める。

(8) 研究事業

他博物館、大学、研究機関、学会、研究会、企業等と連携した研究活動を行う。海外の研究者との学術交流を行う。

(9) 子ども一日館長

近隣小学校に子ども一日館長の推薦を依頼し、任命する。任命式を開催し、行事の開会宣言をしてもらうなどのイベントを行う。

5. 「どこでも博物館」事業

(1) 出張展示

府有財産でもある館蔵品を有効に活用し、かつ当館の存在を周知するため、府内および近隣府県を含む博物館・資料館等に館蔵品を中心とした出張展示を行う。

(2) サテライトミュージアム

和泉市池上曾根情報館と泉大津市池上曾根弥生学習館にて当館所蔵品の展示を行う。

(3) 学芸員の出張講演・講座

当館学芸員が出向き、講演や体験学習を実施する。成人の生涯学習を支援する。

(4) 出張体験学習

各種催しに体験学習ブース等を出展する。

6. 「体験する博物館」事業

(1) 他館との連携事業

泉州・紀北ミュージアムネット加盟館等と連携して多様なワークショップ等を行う。

(2) 史跡公園の活用

史跡公園や学習館で開催される行事に協力し、体験学習等を実施する。

(3) こどもファーストディ（みんないっしょに考古楽）

大阪府の「こころの再生」施策の一環として毎月第3土曜日に実施する。体験活動を通して、当館ならびに弥生文化を身近に感じてもらうため、弥生文化を中心とした、子どもから大人までを含めた一般向けの体験型の考古学講座を開催する。

7. 企業との連携事業

(1) 遺跡見学ツアー

新事業の展開とそれにもとづく新たな顧客を開拓するため、民間旅行会社と連携し、日本の弥生文化に関わる遺跡等の見学旅行を企画する。

8. 広報普及事業

(1) ミュージアムカレンダー

館行事を広く周知するため、行事予定をカレンダーにして作成、配布する。

(2) 要覧作成

『令和2年度弥生文化博物館要覧』（令和4年3月31日発行）を作成し、関係諸機関に配付する。

(3) 広報活動の活発な展開

市町と連携し市町広報誌やホームページ等への当館展覧会、行事案内等の掲載について協力をあおぎ、効率的かつ効果的な広報を行う。館行事を広く周知するため、大阪府教育記者会、堺市政記者クラブ他、各種報道機関等に、積極的かつ広範に資料提供を行う。新規来館者を確保するため、共同で指定管理を担う近鉄ビルサービス株式会社のグループ関連企業の近鉄文化サロンのような講座等を共同で実施し、広報や企画に関して民間の視点からの協力を得る。新聞広告やミニコミ誌なども用い、広報する。

(4) インターネットホームページ

当館ホームページおよびフェイスブック・インスタグラムを用いて、常設展・特別展・企画展・博物館催し物等に関する情報を発信する。

(5) 動画等の配信

館のマスコットキャラクターが弥生文化や当館の展示物、催し等を紹介する4コマ漫画や、特別展・企画展の解説動画をホームページに公開し、インターネット上で配信を行う。

(6) 弥生フェスティバル開催

当館の存在を広くPRするとともに、地元の各種団体や他の博物館、企業と連携して楽しく学べる空間を創出することを目的として、シンポジウム等からなる弥生フェスティバルを計画する。

9. 研究事業

大学、教育委員会等研究者と学術交流を行う。また、他博物館、大学、研究機関、学会などと連携した研究活動を行う。

10. 資料調査・収集・製作事業

(1) 図書資料管理・収集

学術図書の計画的購入など、資料管理し、収集に努める。また、府民の知的財産を充実させるため、開架図書の充実をはかる。

(2) 館蔵資料の貸出し

収蔵資料を幅広く活用するために、他の博物館等からの要請により貸出しを行う。

11. サービス事業

(1) マーケットリサーチの実施

今後の事業展開の基礎とするため、アンケート（一般用・子ども用）等をとおして、来館者の博物館に対するニーズを把握する。

(2) 障がい者等への利用援助

支援学校の校外学習に際して柔軟な対応で解説や体験を実施する。

(3) 子どもにもわかりやすい解説

館キャラ「カイト」と「リュウさん」によるわかりやすい解説を提供する。

12. 研修事業

(1) 学芸研修

職員を会議や研修に参加させ、博物館管理・運営の参考とする。

(2) 人権研修・消防訓練

職員の人権研修を実施する。消防計画に基づいて自衛消防訓練を実施する。

13. 施設管理事業

(1) 日常的管理

指定管理共同企業体の近鉄ビルサービスと共に、施設管理年間計画を策定し、定期点検等、施設管理を行う。また、経年劣化等により修繕が必要な箇所を抽出し、所管課に改善を提案する。

(2) 修繕

急を要するものや、来館者の満足度向上に資すると思われるものについて、適宜修理等を提案し、実施する。

(3) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑みて、各事業の内容・回数・実施方法を検討し、開催する。

また、館内消毒を心がけるとともに、来館者に向けて手指消毒の呼びかけや検温等も継続して行う。

IV. 大阪府立近つ飛鳥博物館事業

1. 展示公開事業

「日本古代国家の形成過程と国際交流をさぐる」をメインテーマに、博物館法並びに大阪府博物館条例に基づき、展示公開を行う。

(1) 常設展示

『近つ飛鳥と国際交流』、『古代国家の源流』、『現代科学と文化遺産』をテーマとし、展示する。

(2) 特別展・企画展

新規の来館者の裾野を拡げるとともに、来館者の歴史文化に対する知的満足度をさらに高めるため、企画展を下記のとおり開催する。

①夏季企画展「(仮) 古市古墳群に暮らした人たち—集落遺跡からみる古市古墳群—」

ア. 開催趣旨

世界文化遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群では、今日までに多くの発掘調査が行われている。今回の展示では、古市古墳群内で行われた最近の調査・研究成果や従来から蓄積された資料の中から、主に古墳時代における生活に直接かかわると考えられる資料を紹介し、古市古墳群の集落遺跡について考えたい。

イ. 開催期間 令和3年7月17日（土）～9月5日（日）【44日間】

②秋季特別展「(仮) 煌めく玉と黄金の考古学—装身具から考えるヤマト王権—」

ア. 開催趣旨

古墳時代、人々が「古墳」と社会的モニュメントの造営に注力するなか、装身具は社会的ステータス・シンボルであり壮麗な舞台を彩るシンボルとして様々な形で用いられた。この展示では、弥生時代から古墳時代の装身文化とその背景、王権とのかかわりや社会的な意味などに焦点を充てて古墳時代を考える。

イ. 開催期間 令和3年10月2日（土）～11月28日（日）【48日間】

③冬季特別展「(仮) 北海の狩人—古代オホーツク文化展—」

ア. 開催趣旨

オホーツク文化は、サハリン南部から北海道の東北部、千島列島にかけて、5世紀から9世紀頃にかけて広がった古代文化である。東京大学では北海道常呂町（現北見市）に設置した北海文化研究常呂実習施設を中心に、オホーツク文化の遺跡を多数発掘調査している。本展示では、これら最新の研究成果に基づいて、「北の異界」である古代オホーツクの氷民の姿を描き出したい。

- イ. 開催期間 令和4年1月22日（土）～3月13日（日）【43日間】
- ウ. 共 催 東京大学大学院人文社会系研究科附属北海文化研究常呂実習施設・同研究科考古学研究室・横浜ユーラシア文化館

（3）特別陳列・連携展示

①春季特別陳列「献する器——須賀古墳群出土品を中心にー」

- ア. 開催趣旨

古墳時代中期に日本列島で作られるようになった須恵器には集落ではほとんどみかけない、古墳専用の独特な形をした器がある。子持器台といわれる壺をたくさん貼り付けた器台はその一つである。今回の特別陳列では館蔵品である一須賀古墳群出土資料を中心に、南河内の群集墳から出土した古墳専用の器について考えてみたい。

- イ. 開催期間 令和3年4月24日（土）～6月13日（日）【44日間】

（4）スポット展示

周辺自治体の調査成果や館収蔵資料のうち未公開資料等、最新情報をスポット展示で発信する。

- ア. 滋賀県立安土城考古博物館との連携展示「でかける博物館 in 近つ飛鳥博物館」の実施

- イ. 地元市町村との連携展示

2. 講演会事業

（1）特別展・企画展等関連の講演会

特別展・企画展のテーマに沿って、来館者の歴史文化に対する関心を高めるなど、生涯学習のきっかけづくりのために、講演会を開催する。各企画1～2回程度を予定し、合計5回程度を計画する。

（2）近つ飛鳥入門講座・土曜講座

①入門講座「もっと知りたい『ちかつ博』」

常設展示の内容に基づいた基礎的な講座として実施する。毎月第2土曜日を基本とし、12回を予定。

②土曜講座「オーサカ発 調査研究最前線」

学芸員による研究成果に加えて、大阪府教育庁・大阪府文化財センターをはじめ、大阪府内市町村教育委員会などの協力を得て講師を招聘し、最新の研究成果を伝える場として開催する。毎月第4土曜日を基本とし、12回を予定。

3. 「府民が参加する博物館」事業

(1) 古墳の森コンサート

博物館屋上階段広場を利用して、音楽会を開催し、親しみある博物館・風土記の丘にふれ合う場とする。地元高校生の軽音楽部の発表の場となり、他学校との交流の場とする。春季、秋季2回開催する。4月29日（木祝）、11月3日（水祝）。

(2) 古墳時代まつり「春の博物館であそぼう」

豊かな自然を持つ風土記の丘を活用し、ウォークラリー・勾玉づくり・森の工作などを開催する。5月3日（月祝）。

(3) うめまつり

風土記の丘の梅開花にあわせて、体験や物販販売等、地元団体と連携したイベントを実施する。

(4) さくらまつり

風土記の丘の桜開花にあわせて、体験や物販販売等、地元団体と連携したイベントを実施する。

(5) 博物館バックヤード探検ツアー

親子、また一般を対象に、博物館により親しみが持てるよう、博物館の仕組みの説明や、普段公開しない収蔵庫などの博物館のバックヤードを観察する見学会を実施する。5月、7月、8月、11月・2月の合計5回程度実施。

(6) 風土記の丘古墳探検ツアー

小中学生および保護者を対象に、近づ飛鳥風土記の丘の一須賀古墳群を見学する探検ツアーを実施する。5月、11月に合計2回程度実施。

(7) 近づ飛鳥ギャラリー

地階広場、1階ロビーの空間を活用し、府民の文化活動を支援する。生涯学習の発表の場として、博学連携のなどの成果なども含めて、絵画・写真等の展示を行う。

(8) ボランティアの募集・活用、地域ボランティア、各種団体との協働

継続してボランティアを募集し、講演会・体験学習などの事業等、幅広い分野への支援活動を行っていただく。また、南河内地域の観光ボランティアグループとの共同事業を推進する。

4. 「博物館 in school」事業－博学連携事業

(1) 校外学習受入れ・体験学習

校外学習を積極的に受入れる。展示物の見学だけではなく、ペーパークラフト・勾玉工房等のワークショップおよび当館展示品の修羅（古墳時代の運搬具）の復原模造品を使った体験学習、風土記の丘（一須賀古墳群）のウォークラリーを実施する。古墳・飛鳥文化に親しみをもってもらい、また、展示物の理解を助ける。

(2) 出前授業

小学校、中学校、高等学校に教育専門員・学芸員が出向き、ワークショップ（体験学習）を通じて、古墳・飛鳥文化の理解に努め、館に親しみをもってもらう。中学校・高等学校ではキャリア教育の一環として博物館の仕事を紹介する。

(3) 学校団体利用案内の作成

学校団体が来館する際の利用手引を作成し、利用を促す。近隣関連施設とも含めたコースの提案もすすめる。

(4) 教員の研修、研究団体の受け入れ

教員や研究団体等の研修を博物館で行うように誘致し、連携を深める。教員研修では学校教育での博物館施設の活用連携を深める。

(5) 学習用ワークシートの作成

博物館での児童生徒の学習意欲を促し、展示に対する興味を喚起するためにワークシートを作成する。

(6) 大学生博物館学実習および芸術大学実習

各大学から学芸員課程の履修学生を受け入れ、博物館学実習を行う。また、大阪芸術大学のさまざまな実習の場として支援する。

(7) 大学生・高校生・中学生の職場体験学習

大学生・高校生・中学生を受け入れて、博物館事業運営の体験学習を実施し、将来の職業選択の参考となる体験の支援をする。

(8) 地元大学との連携

大阪芸術大学と博学連携活動の場として博物館を活用してもらう。

5. 「どこでも博物館」事業

(1) れきしウォーク（現地見学会）

学芸員の案内による実地での遺跡見学会を実施し、大阪の歴史を学び、来館の機会を促す。各展覧会に関わる見学会の他、大阪府内周辺各地の見学会を実施する。春夏秋冬各1回、展示企画関連2回の合計6回程度を実施する。

(2) 出張講座・ワークショップ

公民館等へ出向き、講演や体験学習を実施し、古墳・飛鳥文化の理解に努め、地域における歴史遺産の普及活動や成人の生涯学習を支援する。また、近鉄グループ等と連携し、近鉄文化サロンのような講座等を共同で実施し、広報や企画に関して民間の視点から協力を得る。

(3) 大阪市内等での講演会

当館の活動の府民等への周知と百舌鳥・古市古墳群世界遺産への府民の理解の醸成をはかる。数百名規模程度の会場を設定する。

(4) 出張展示

実物資料や写真パネル等、館外での出張ミニ展示を行う。他地域の博物館・資料館との連携による展示や、イベントスペースなどにおける展示も積極的に行う。歴史教育の一助とともに、当館の認知度アップにもつなげる。

- ア. 連携展示「でかける博物館 in 滋賀県立安土城考古博物館」の実施
- イ. 大阪府立狭山池博物館連携展示

(5) 地元市町村との連携

地元市町村や自治会等の文化祭等の催しへの積極的な参加をする。

6. 「体験する博物館」事業

(1) 夏休みこども工作室

小中学生を中心として、その保護者と共に、リサイクル資材などを活用した工作室を開催する。

(2) こども勾玉つくり工房

小中学生とその保護者を対象にして、勾玉づくりを行う。

5月3日（月祝）の古墳時代まつりと8月に計3回程度。

(3) こどもファーストディ

大阪府の「こころの再生」施策の一環として毎月第3土曜日に実施する。家族のコミュニケーションを深めるきっかけづくりを応援する。展示品に関わるもの的工作や、風土記の丘の木の実や枝等を利用した工作指導を実施する。

7. 企業との連携事業

(1) 遺跡見学ツアー

旅行会社や鉄道会社と連携し、博物館周辺の遺跡と博物館を見学するツアーや遠方へのツアーを共同企画する。

8. 広報普及事業

(1) 機関紙「博物館だより」(アスカディア・古墳の森) の発行

展示会の案内、博物館活動の報告、タイムリーな話題や収蔵品の紹介を掲載して、博物館と府民のコミュニケーションを図るPR誌を年2回発行する。

(2) 近つ飛鳥博物館「館報」の刊行

館のテーマに沿った研究報告、博物館活動についての報告や年間事業記録などを掲載する館報を刊行する。

(3) 催し物案内の作成

府民や各種団体に博物館行事の周知を図り、来館を促すためのチラシを作成する。3か月単位のミュージアムカレンダーを作成し、配布する。

(4) 校外学習の案内

小・中学校および高等学校の校外学習での利用を促すため、校長会等を通じて案内活動を行う。

(5) マスコミ・ミニコミ紙等への情報提供等

新聞、テレビ、ラジオの報道機関、ミニコミ誌へ積極的に情報を提供する。また、博物館周辺の地域住民へは自治会を通じて情報を提供する。

(6) 広報の強化

近隣市町の協力を得て、広報誌等に当館の案内やコラム等を掲載し、効率的かつ効果的な広報を行う。また、新聞等の有料広告を効果的に活用する。インターネットの博物館情報サイト等の活用や、共同運営をおこなう近鉄ビルサービス株式会社のグループとの連携により、関連施設での広報展示、パンフレットへの掲載等、より効果的な広報活動を展開する。

(7) ホームページの充実

常設展・特別展・企画展の情報・博物館催し物案内など、近つ飛鳥博物館ホームページから発信する。外国人来館者にも対応できるよう、外国語による情報発信を強化する。また、Facebook・LINE等のSNSを活用した情報発信も継続して進める。

9. 研究事業

(1) 他博物館等と連携した研究活動

大阪府、奈良県の博物館が連携した「金剛葛城地域博物館ネットワーク協議会」に加盟し、情報・意見交換、共同事業の開催など、相互協力した事業を進める。また、学会・研究会等と連携した活動も努める。

(2) 国内・海外の研究者との学術交流

(3) 客員学芸員制度

展示企画・研究活動について実務面での人的な協力体制をつくり、より充実したものとするため、客員学芸員を委嘱する。

(4) 研究成果の発表

(5) 全国風土記の丘協議会への参加

協議会へ出席し、各地の風土記の丘の活用について情報を収集する。

10. 資料調査収集・製作・管理事業

(1) 図書資料管理・収集

学術図書の計画的購入等、資料管理し、収集に務める。各博物館・各都道府県・市町村から寄贈された図書を登録し、書庫へ配架する。また来館者に文化財に関する研究・探究心を深めていただくため、普及啓発用図書や学術図書を計画的に購入し書籍閲覧コーナーの充実をはかる。

(2) 館蔵資料の管理、学術的整理、保管

所蔵資料の適切な管理を実施する。重要文化財「修羅」、紫金山古墳、南塚古墳出土品などについては、所蔵者、研究機関を交えた定期的な点検を実施する。また、館蔵資料の観察記録作成などの資料整理を行う。

(3) 館蔵資料の貸出し

保管する収蔵資料を幅広く活用するために、他の博物館等からの要請により貸出しを行う。

11. サービス事業

(1) マーケットリサーチ、満足度調査の実施

アンケート等を通して、来館者の博物館に対するニーズを明確にし、今後の事業展開の基礎とする。調査結果を Web サイトにおいて公開する。

(2) 相談コーナーの設置

週末や企画展等の開催期間を中心に、実物資料に触れることができるコーナーを設置し、かつ、来館者からの文化財に対する様々な疑問に応える。

(3) 障がい者等への利用援助

支援学校の校外学習に際して柔軟な対応で解説や体験メニューを実施し、障がい者の

健康面に配慮し、機器用電源や休憩室を必要に応じて確保する。

(4) 子どもにもわかりやすい解説

各展覧会で子ども向け解説パネル・リーフレット等を提供する。

(5) 音声ガイドの無料貸出

常設展示の日本語（一般・児童）の他、英語・韓国語・中国語を用意し、外国人利用者へも配慮する。特別展・企画展においては別途、日本語解説を作成する。

(6) 解説シートの作成

展示観覧の補助となる解説シートを作成する。

12. 研修事業

(1) 学芸研修

職員を会議や研修に参加させ、博物館管理・運営の参考とする。

(2) 人権研修・消防訓練研修

職員の人権研修を実施する。消防計画に基づいて自衛消防訓練を実施する。

13. 施設管理事業

(1) 日常的管理

指定管理共同企業体の近鉄ビルサービスと共に、施設管理年間計画を策定し、定期点検等、施設管理を行う。また、経年劣化等により修繕が必要な箇所を抽出し、所管課に改善を提案する。

(2) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑みて、各事業の内容・回数・実施方法を検討し、開催する。

また、館内消毒を心がけるとともに、来館者に向けて手指消毒の呼びかけや検温等も継続して行う。

15. 近つ飛鳥風土記の丘の管理事業

(1) 日常的管理

園路およびみどりの広場の草刈りおよび清掃、園内施設の清掃等を実施する。損壊、損傷等の行為に係る点検をする。

V. 泉佐野市立歴史館いづみさの事業

1. 展示公開事業

(1) 常設展示

泉佐野を代表する歴史遺産である中世荘園の日根荘の時代をテーマにした展示をする。その時代の人びとのくらしなどを当時の絵図や日記、荘園模型とともに紹介する。

(2) 特別展・企画展

新規の来館者の裾野を拡げるとともに、来館者の歴史文化に対する知的満足度をさらに高めるため、特別展・企画展を下記のとおり開催する。

① 春季企画展「絵図を読む」

ア. 開催趣旨

様々な目的で作成される絵図。そこには作成者の意図や、今ではわからない作成当時の情報が隠されています。本展示では、山の出入りの裁許に際する村出入りの表示、浦浜における争論による境界の図示、街道や水路の開発のための製図など様々な用途で作成された絵図を展示し、絵図作成の背景、歴史を紹介しながら絵図に記された泉佐野の姿を読み取ります。

イ. 開催期間 令和3年4月29日（木・祝）～7月25日（日）

② 秋季特別展「（仮）日根荘とその時代」

ア. 開催趣旨

日本遺産に認定された日根荘。当時の様相は古文書のほか、絵画資料、考古資料、建築資料など様々な史料・資料から読み取ることができます。本展示では、日根荘や九条家に関する資料を、発掘調査の資料なども含めて展示し、中世の和泉国の様相から日根荘の細かな地域の歴史に至るまで日根荘があった頃の歴史を描きます。

イ. 開催期間 令和3年9月11日（土）～12月12日（日）

③ 冬季企画展「（仮）懐かしの昭和レトロ」

ア. 開催趣旨

館蔵資料を中心に昭和30～40年代を象徴する道具類や家具、日用品、一世を風靡したホーロー看板などを展示し、かつての昭和を彩った道具を令和へ伝え、人々のまわりの生活がどのような変遷をたどったのかを道具から探ります。

イ. 開催期間 令和4年1月15日（土）～3月21日（月・祝）

(3) エントランスホール展示

① 日本遺産ガイダンスセンター

日根荘の日本遺産認定に関連して、令和2年度に設置されたガイダンスセンターにおいて、市民や来館者を対象に日根荘に関する知識や現地見学の便を図る。

② 歴史館ギャラリー（市民連携活動）

市民の創作活動を発表とする場、他自治体と連携した展示を歴史館ギャラリーとし、絵画、写真等の作品展を自主事業として隨時実施する。

③ 図書閲覧コーナー

郷土史の理解を深めるため、郷土の歴史文化を中心とした図書を集めて市民が自由に閲覧できるコーナーを設ける。

2. 講演会事業

（1）館長講演会

年に2回、館長による講演会を行う。

（2）特別展・企画展関連の講演会

特別展・企画展のテーマに沿って、来館者の歴史文化に対する関心を高めるなど、生涯学習のきっかけづくりのために、講演会を開催する。

（3）歴史学講座

① 貴族社会編 宮廷生活や俗信に深い影響を与えた陰陽道や、九条家が重用した陰陽師についてとりあげ、神道・修驗道と陰陽道の関わりについて考える。

② 寺院史編 寺院に伝わる古文書や仏像などを通して、寺院社会の姿や民衆との関わりについて取り上げる。

③ 城郭編 昨年度に引き続き、日本城郭の歴史的変遷や構造について連続講座を行う。

（4）古文書講座

① 初級編 古文書に親しんでもらうことを目標とする。

② 応用編 中・近世を題材として取り上げる。

（5）学芸員の出張講演・講座

歴史館いづみさのの知名度アップを図り、多くの方々の来館を促進するため、他施設からの依頼に応じて出張講演等を実施する。

（6）学芸員による展示解説

講演会開催日に特別展示室において学芸員が展示解説を行うほか、来館者からの要望に応じて随時展示解説を実施する。

3. 体験学習事業

(1) 小中学校の団体見学受け入れ

各学校と連携し、学芸員が展示解説を行い、展示室での生徒の学習を支援する。

(2) 出前授業

幼稚園児から高校生に至るまで、館や郷土の歴史・民俗に親しみをもってもらうため、学芸員等が学校に出かけ、体験学習等を行う。

(3) 大学・高等学校、その他団体見学受け入れ

大学、高等学校、その他団体を受け入れ、学芸員が展示解説を行う。

(4) 子ども向け体験（れきし館ワークショップ）

毎月1回程度、体験学習事業を開催する。スタンプカードを作成し、継続的な学習、来館を促進する。

(5) いずみさの歴史ウォーク

郷土の史跡や文化財をめぐる歴史ウォークを行う。

(6) 市民・各団体連携（でかける歴史館）

他施設において、講演会や体験学習事業等を実施し、歴史館いずみさの知名度アップを図り、多くの方々の来館を促進する。

4. 資料収集・提供事業

(1) 寄贈等された図書の登録

各博物館・市町村等から歴史館へ寄贈等された図書を台帳に登録し、書庫に開架する。

(2) 資料等の貸出

当館所蔵の資料（実物・復元・写真・映像等）を依頼に応じて、全国各地の博物館等へ貸出し、所蔵資料を活用するとともに、各方面へ日根荘をはじめとする泉佐野市に関する情報を発信する。

(3) 展覧会、イベント開催のポスター・チラシの配布

各展覧会、イベント開催にあわせ、ポスター・チラシを作成し、学校、公民館をはじめ、各機関に配布し、周知を図る。

(4) 展覧会でのリーフレット・図録等の作成配布

- ①各展覧会にあわせ、展示資料一覧等の閲覧ガイド・リーフレット・図録のいずれかを作成し、来館者に配布すると共に、図書館、各地博物館をはじめ、各機関に配布する。
- ②図録の再版 泉佐野市教育委員会の既刊行の図録には、貴重な情報源でありながら在庫がないものや残部わずかのものがあるところから図録の再版を行う。

(5) 『歴史通信いづみさの』の刊行

館の活動を報告し、博物館に対する市民の理解を得るために、年1回『歴史通信いづみさの』を刊行する。

(6) 歴史館紹介ちらしの配付

出前授業で学校を訪問した際、生徒々に来館を促すちらしを配付し、小・中学生を中心とする子どもたちが家族で歴史館に来館する動機づけを進める。

(7) 広報活動の活発な展開

館行事を広く周知するため、広報活動を充実する。

- ①フェイスブック等SNSにリアルタイムに行事の告知や実施報告記事を掲載する。
- ②泉佐野市広報誌『広報いづみさの』に行事を随時掲載する。
- ③泉佐野市政記者クラブ、新聞社、テレビ局、ミニコミ誌等に情報を提供する。

(8) 満足度調査の実施

よりよい館運営を行うため、展示室にアンケートを設置し、また、講演会ではアンケート用紙を配付し、来館者の要望や展示・講演会への意見等の把握に務める。

(9) 「れきし相談コーナー」の設置

市民からの歴史・考古学に関する質問や相談等にきめ細やかに対応する。

5. 人材育成事業

(1) 博学連携事業の推進

中学生職場体験や大学生の学芸員資格取得に伴う博物館実習等の要請を受け入れる。

(2) ボランティア活動（市民が参加する歴史館）

広く市民ボランティアを募集し、市民とともに博物館事業を推進していく。

6. 施設管理事業

(1) 資料の保管

展示室、一般収蔵庫、特別収蔵庫の温度湿度を常時監視し、適温適湿の維持に務める。

一般収蔵庫と特別収蔵庫においては燻蒸処理を年1回実施する。

(2) 施設（備品）の維持管理

館内施設（備品）を適切な状態に保つよう務める。

(3) 施設の利用許可対応

研修室の利用許可の対応を行う。

(4) 市との意見交換の実施

管理運営に関する協議や意見交換を定期的に実施する。

(5) 館員の研修

人権研修を実施する。障がい者に配慮した対応の研修を実施する。

(6) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑みて、各事業の内容・回数・実施方法を検討し、開催する。

また、館内消毒を心がけるとともに、来館者に向けて手指消毒の呼びかけや検温等も継続して行う。

7. 書籍の販売協力

泉佐野市刊行の常設展、特別展の図録等の書籍の販売に協力する。

VI. 日本民家集落博物館事業

1. 展示公開事業

一般府民への普及啓発と博物館の研究成果の公開のために、特別展又は企画展を開催する。また、展示室を一般府民に開放し、市民展示も開催する。

(1) 常設展示

国指定重要文化財 3 件、国指定重要有形民俗文化財 1 件、国登録文化財 3 件、大阪府指定有形文化財 4 件、大阪府指定有形民俗文化財 1 件を展示公開する。「むかしのくらし展示」では民具を展示すると共に昭和 30 年代の一部屋を再現し、公開する。石臼体験コーナーを併設する。

(2) 市民展示

地域の文化サークルや団体向けに日向椎葉の民家他の文化財指定民家をギャラリーとして活用することにより地域に開かれた博物館を目指す。

①「同友会写真クラブ展」

- ア. 内 容 豊中市退職教職員者同友会写真による、民家の写真展。
イ. 開催期間 令和 3 年 3 月 27 日（土）～4 月 4 日（日）

② 西野誠一切り絵展「山登りの思い出」

- ア. 内 容 西野誠一による、日本各地の山の風景をテーマにした切り絵作品展。
イ. 開催期間 令和 3 年 5 月 1 日（土）～5 月 30 日（日）

③ ハンドメイド作品展「民家集落の美しい竹林から」

- ア. 内 容 竹林キーパーの皆さんによる竹細工の作品展。
イ. 開催期間 令和 3 年 6 月 5 日（土）～6 月 27 日（日）

(3) 企画展「とほるのかいこ日記」

- ア. 内 容 飛驒白川の民家で昭和初期まで行われていた養蚕にちなんで、館長が、夏季に蚕を飼育した際の観察記録と繭から採取した絹糸や真綿等を紹介する。
イ. 開催期間 令和 3 年 10 月 2 日（土）～10 月 31 日（日）

2. 講演会解説事業

(1) 民家解説

展示民家について、ボランティアによる解説を行う。

(2) 「北河内の茶室公開」

- ア. 内 容 北河内の茶室を来館者に公開し、案内を行う。
イ. 開催日 令和 3 年 4 月 3 日以降の毎月第 1 ・ 第 3 土曜日（8 月を除く）

1～3月は、第3土曜日。

(3) 「白川の民家2階特別公開」

- ア. 内容 飛驒白川の民家2階を来館者に公開し、案内を行う。
- イ. 開催日 令和3年4月4日以降の毎月第1・第3日曜日（8・12～2月を除く）

3. 体験学習・学校教育連携事業

(1) 「みんなで紙芝居」

- ア. 内容 小学生の親子を対象に昔話の紙芝居実演を行い、日本の昔話に親しんでもらう。
- イ. 開催日 令和3年4月10日（土）以降の毎月第2・第4土曜日（7・8月をのぞく）

(2) 夏休み親子企画「昔の暮らしについて学ぼう」

①白川郷の2階をのぞいてみよう

- ア. 内容 小学生の親子を対象に白川の民家の屋根裏を公開する。
- イ. 開催日 令和3年7月17日（土）、18日（日）、24日（土）、25日（日）、31日（土）、8月1日（日）、7日（土）、8日（日）、14日（土）、15日（日）、21日（土）、22日（日）、28日（土）、29日（日）

②なぞり書きと民家のぬり絵

- ア. 内容 小学生の親子を対象に民家の縁側で、「奥の細道」や童謡などのなぞり書き体験や、民家と昔の暮らしを描いたイラストのぬり絵体験を行う。
- イ. 開催日 令和3年7月17日（土）～8月29日（日）

③まゆから真綿づくり体験

- ア. 内容 白川の民家で、小学生の親子を対象に、博物館でとれた蚕のまゆから、真綿作りの体験を行う。
- イ. 開催日 令和3年8月21日（土）

④竹細工づくり体験

- ア. 内容 小学生の親子を対象に、博物館の竹林に生えている竹から竹細工を作る体験を行う。
- イ. 開催日 令和3年8月22日（日）

(3) 季節行事

- 日本の四季折々の歳時記にちなんだ催し（正月飾り展、雛飾り、鯉のぼり・5月人形、七夕飾り、お盆飾り等）を行う。

(4) 囲炉裏体験

- 展示民家において、ボランティアによる囲炉裏体験を行う。

(5) 参加体験型事業

親子笛掘り体験、竹細工作り体験、コマ遊び、紙芝居、養蚕体験等、入館者の参加・体験型の催しを行う。

(6) 伝統文化体験教室

「こども囲碁クラブ」を開催し、こどもたちが日本の伝統文化に慣れ親しむ場を提供する。(ライフスポーツ財団助成事業)

(7) 小学校の体験学習

小学3年生社会科「昔のくらし」・4年生社会科「暮らしの移りかわり」単元と連動し、民家や民具を活用した「みんなむかしのくらし体験学習」を実施し、地域の学校や教育機関との連携を拡大する。

(8) 中学生の職場体験学習

中学生の職場体験学習を受け入れ、地域の学校との連携を深める。

4. 資料収集・提供事業

(1) 資料収集・研究

移築民家や収蔵民具に関する資料を収集するとともに、地域住民と連携し、広く情報を募りながら必要な資料の収集・研究を行う。

(2) 展示民家を提供・活用

各種コンサート、昔話を聞く会、尺八の演奏と解説会、はたおり体験、昔の遊び体験等の開催により、展示民家を活用しながら入館者に公開する催しを行う。一部の催しは地域の文化サークルや団体との共催とし、民家を会場として提供する。あわせて、「大和十津川の民家」「南部の曲家」、状況に応じて、「越前敦賀の民家」「日向椎葉の民家」「飛驒白川の民家」「摂津能勢の民家」も貸部屋として提供することで、民家により親しんでもらうための活用を図る。

(3) 関係書籍・博物館記念物品の頒布

展示資料の理解を深めるため、関係書籍等を頒布する。また、博物館を身近に感じてもらうために博物館記念物品を希望者に頒布する。

5. 人材育成事業

(1) ボランティア活動の促進

ボランティアを募集し、その援助により館の諸活動の充実を期するとともに、地域社会に生涯学習の場を提供する。「勉強会」「交流会」などの機会を設けてボランティアとのコミュニケーションを深め、活動の促進をはかる。

(2) 大学博物館実習

大学の博物館実習生を受け入れ、学習の場を提供し、館の普及活動の一助とする。

6. 文化財普及・広報事業

(1) 特別行事

服部緑地 10月祭への協賛・参加事業として、体験イベント「みんなむかしのあそび体験」を開催する。

開催日 令和3年10月16日（土）

(2) 広報リーフレットの作成

「催し案内」を定期的に作成し、関係機関・団体に配布し広報に努める。新規来館者を増やすため、近隣老人施設、写真や絵画のサークルなどに「催し案内」を配布する。

(3) インターネットによる広報

当館の概要や催し案内をホームページで、桜や紅葉等季節の花々と民家の風景、民家クイズ等をフェイスブックで広報し、PRの充実に努める。

(4) 諸団体との連携

豊中市広報公聴課、地元ケーブルテレビ、FMラジオ、ミニコミ紙、阪急電鉄、北大阪急行電鉄、服部緑地公園管理事務所、都市緑化植物園、服部緑地「みどり・文化・地域」を育てる協議会等と連携し、効果的な広報に努める。また、府教職員互助組合等各種団体のメディアを通じての広報の協力を依頼する。NPO法人シニア自然大学校と連携し、ジュニア自然大学「服部緑地こどもゆめくらぶ」の活動に協力し、博物館の利用促進をはかる。

(5) 資料の作成・頒布

「民家の案内」「民俗」（上・下巻）「旧椎葉家住宅主屋・馬屋保存修理工事報告書」を頒布する。また、小中学生向け案内マップ及び英語、フランス語、中国語、韓国語、スペイン語、イタリア語による案内マップを作成し配付する。

7. 保存修理・施設整備事業

(1) 国重要文化財 信濃秋山の民家（旧山田家住宅）保存修理工事

経年劣化が進行している秋山の民家について、屋根全面葺替及び部分修理の保存修理工事を、国庫補助を受けて実施する。工事は令和2年度から3年度までの2か年度事業の予定である。

また、本事業を契機に当センターでは初のクラウドファンディングを立ち上げ、工事費などの確保を図る予定である。

(2) 施設整備

展示民家の維持保存に悪影響を及ぼす樹木の伐採、見学者の安全に配慮した園路・階

段などの整備を行う。竹林においては専門に扱うボランティア活動の支援により実施する。

(3) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑みて、各事業の内容・回数・実施方法を検討し、開催する。

また、館内消毒を心がけるとともに、来館者に向けて手指消毒の呼びかけや検温等も継続して行う。

令和3年度 収支予算書

公益財団法人 大阪府文化財センター

令和3年度
収支(正味財産増減)予算書 内訳表

公益財団法人 大阪府文化財センター

令和3年度 収支(正味財産増減)予算書 内訳表

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位 円)

科 目	公益目的 事業会計	法人会計	合 計	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益				
基本財産受取利息	1,924,000	0	1,924,000	
基本財産運用益計	1,924,000	0	1,924,000	
② 特定資産運用益				
特定資産受取利息	9,200,000	0	9,200,000	
特定資産運用益計	9,200,000	0	9,200,000	
③ 受取会費				
受取会費等振替額	860,000	0	860,000	
受取会費計	860,000	0	860,000	
④ 事業収益				
入館料収益	11,360,000	0	11,360,000	
受託事業収益	621,949,000	18,708,000	640,657,000	
講座等参加料収益	426,000	0	426,000	
書籍販売等収益	3,500,000	0	3,500,000	
受託販売手数料収益	300,000	0	300,000	
施設利用料等収益	960,000	0	960,000	
博物館実習受入収益	205,000	0	205,000	
講師料収益	192,000	0	192,000	
事業収益計	638,892,000	18,708,000	657,600,000	
⑤ 受取補助金等				
受取国庫文化財保存修理補助金	30,015,000	0	30,015,000	
受取府運営費補助金	7,067,000	0	7,067,000	
受取府管理費補助金	47,000	0	47,000	
受取助成金	250,000	0	250,000	
受取補助金等振替額	110,000	0	110,000	
受取補助金等計	37,489,000	0	37,489,000	
⑥ 受取寄附金				
受取寄附金	5,050,000	0	5,050,000	
受取寄附金等振替額	1,171,000	0	1,171,000	
受取寄附金計	6,221,000	0	6,221,000	
⑦ 雜収益				
受取利息	3,000	0	3,000	
受取出向料	310,000	0	310,000	
雑収益	307,000	0	307,000	
雑収益計	620,000	0	620,000	
経常収益計	695,206,000	18,708,000	713,914,000	

(単位 円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合 計	備 考
(2) 経常費用				
① 事業費				
役員報酬	2,487,000	0	2,487,000	
給料手当	237,160,496	0	237,160,496	
賃金	155,829,106	0	155,829,106	
期末勤勉手当引当金繰入額	27,342,579	0	27,342,579	
退職給付費用	21,649,417	0	21,649,417	
福利厚生費	57,402,701	0	57,402,701	
交際費	24,000	0	24,000	
会議費	8,000	0	8,000	
広告費	800,000	0	800,000	
旅費交通費	2,507,000	0	2,507,000	
通信運搬費	4,517,000	0	4,517,000	
棚卸資産売上原価	1,995,000	0	1,995,000	
減価償却費	154,048,000	0	154,048,000	
図書購入費	400,000	0	400,000	
消耗品費	18,900,000	0	18,900,000	
光熱水料費	28,408,000	0	28,408,000	
修繕費	2,246,000	0	2,246,000	
印刷製本費	16,078,000	0	16,078,000	
賃借料	11,790,000	0	11,790,000	
支払手数料	1,573,000	0	1,573,000	
保険料	1,836,000	0	1,836,000	
報償費	1,632,000	0	1,632,000	
租税公課	1,125,000	0	1,125,000	
支払負担金	752,000	0	752,000	
委託費	56,312,000	0	56,312,000	
工事請負費	47,640,000	0	47,640,000	
委託販売手数料	200,000	0	200,000	
分配金費	45,310,000	0	45,310,000	
雑費	764,000	0	764,000	
事業費計	900,736,299	0	900,736,299	
② 管理費				
役員報酬	0	1,164,000	1,164,000	
給料手当	0	9,833,000	9,833,000	
賃金	0	725,000	725,000	
期末勤勉手当引当金繰入額	0	1,092,000	1,092,000	
退職給付費用	0	784,000	784,000	
福利厚生費	0	1,761,000	1,761,000	
交際費	0	7,000	7,000	
会議費	0	3,000	3,000	
旅費交通費	0	37,000	37,000	
通信運搬費	0	156,000	156,000	
減価償却費	0	714,000	714,000	
消耗品費	0	244,000	244,000	
光熱水料費	0	65,000	65,000	
修繕費	0	102,000	102,000	
印刷製本費	0	109,000	109,000	
賃借料	0	634,000	634,000	

(単位 円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合 計	備 考
支払手数料	0	102,000	102,000	
保険料	0	74,000	74,000	
報償費	0	117,000	117,000	
租税公課	0	206,000	206,000	
支払負担金	0	5,000	5,000	
委託費	0	767,000	767,000	
雑費	0	7,000	7,000	
管理費計	0	18,708,000	18,708,000	
経常費用計	900,736,299	18,708,000	919,444,299	
当期経常増減額	△ 205,530,299	0	△ 205,530,299	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 205,530,299	0	△ 205,530,299	
一般正味財産期首残高	1,199,168,846	0	1,199,168,846	
一般正味財産期末残高	993,638,547	0	993,638,547	
II 指定正味財産増減の部				
① 特定資産運用益				
特定資産受取利息	1,000	0	1,000	
特定資産運用益計	1,000	0	1,000	
② 受取会費				
受取賛助会費	860,000	0	860,000	
受取会費計	860,000	0	860,000	
③ 受取寄附金				
募金収益	200,000	0	200,000	
受取寄附金計	200,000	0	200,000	
④ 一般正味財産への振替額				
一般正味財産への振替額	△ 2,031,000	0	△ 2,031,000	
当期指定正味財産増減額	△ 970,000	0	△ 970,000	
指定正味財産期首残高	207,310,379	0	207,310,379	
指定正味財産期末残高	206,340,379	0	206,340,379	
III 正味財産期末残高	1,199,978,926	0	1,199,978,926	

令和3年度 収支(正味財産増減)予算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(公益目的事業会計)

(単位 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減	備考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益				
基本財産受取利息	1,924,000	1,924,000	0	
基本財産運用益計	1,924,000	1,924,000	0	
② 特定資産運用益				
特定資産受取利息	9,200,000	10,696,000	△ 1,496,000	
特定資産運用益計	9,200,000	10,696,000	△ 1,496,000	
③ 受取会費				
受取会費等振替額	860,000	1,975,000	△ 1,115,000	
受取会費計	860,000	1,975,000	△ 1,115,000	
④ 事業収益				
入館料収益	11,360,000	9,250,000	2,110,000	
受託事業収益	621,949,000	672,921,000	△ 50,972,000	
講座等参加料収益	426,000	396,000	30,000	
書籍販売等収益	3,500,000	1,500,000	2,000,000	
受託販売手数料収益	300,000	50,000	250,000	
施設利用料等収益	960,000	355,000	605,000	
博物館実習受入収益	205,000	209,000	△ 4,000	
講師料収益	192,000	390,000	△ 198,000	
事業収益計	638,892,000	685,071,000	△ 46,179,000	
⑤ 受取補助金等				
受取国庫文化財保存修理補助金	30,015,000	10,602,000	19,413,000	
受取府運営費補助金	7,067,000	7,439,000	△ 372,000	
受取府管理費補助金	47,000	47,000	0	
受取助成金	250,000	9,927,000	△ 9,677,000	
受取補助金等振替額	110,000	110,000	0	
受取補助金等計	37,489,000	28,125,000	9,364,000	
⑥ 受取寄附金				
受取寄附金	5,050,000	50,000	5,000,000	
受取寄附金等振替額	1,171,000	1,986,957	△ 815,957	
受取寄附金計	6,221,000	2,036,957	4,184,043	
⑦ 雑収益				
受取利息	3,000	3,000	0	
受取出向料	310,000	531,000	△ 221,000	
雑収益	307,000	208,000	99,000	
雑収益計	620,000	742,000	△ 122,000	
経常収益計	695,206,000	730,569,957	△ 35,363,957	

(単位 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減	備考
(2) 経常費用				
① 事業費				
役員報酬	2,487,000	2,487,000	0	
給料手当	237,160,496	245,907,822	△ 8,747,326	
賃金	155,829,106	162,726,000	△ 6,896,894	
期末勤勉手当引当金繰入額	27,342,579	26,792,836	549,743	
退職給付費用	21,649,417	19,419,416	2,230,001	
退職金	0	723,000	△ 723,000	
福利厚生費	57,402,701	60,933,377	△ 3,530,676	
交際費	24,000	0	24,000	
会議費	8,000	0	8,000	
広告費	800,000	0	800,000	
旅費交通費	2,507,000	928,000	1,579,000	
通信運搬費	4,517,000	3,892,000	625,000	
棚卸資産売上原価	1,995,000	1,000,000	995,000	
減価償却費	154,048,000	120,713,399	33,334,601	
図書購入費	400,000	167,000	233,000	
備品購入委託費	0	5,493,000	△ 5,493,000	
消耗品費	18,900,000	11,888,000	7,012,000	
光熱水料費	28,408,000	29,376,000	△ 968,000	
修繕費	2,246,000	1,368,000	878,000	
印刷製本費	16,078,000	7,769,000	8,309,000	
賃借料	11,790,000	11,233,000	557,000	
支払手数料	1,573,000	660,000	913,000	
保険料	1,836,000	1,321,000	515,000	
報償費	1,632,000	649,000	983,000	
租税公課	1,125,000	1,160,000	△ 35,000	
支払負担金	752,000	658,000	94,000	
委託費	56,312,000	77,850,000	△ 21,538,000	
工事請負費	47,640,000	9,591,000	38,049,000	
委託販売手数料	200,000	50,000	150,000	
分配金費	45,310,000	47,283,000	△ 1,973,000	
雑費	764,000	244,000	520,000	
事業費計	900,736,299	852,282,850	48,453,449	
経常費用計	900,736,299	852,282,850	48,453,449	
当期経常増減額	△ 205,530,299	△ 121,712,893	△ 83,817,406	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 205,530,299	△ 121,712,893	△ 83,817,406	
一般正味財産期首残高	1,199,168,846	1,320,881,739	△ 121,712,893	
一般正味財産期末残高	993,638,547	1,199,168,846	△ 205,530,299	

(単位 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減	備考
II 指定正味財産増減の部				
① 特定資産運用益				
特定資産受取利息	1,000	1,000	0	
特定資産運用益計	1,000	1,000	0	
② 受取会費				
受取賛助会費	860,000	905,000	△ 45,000	
受取会費計	860,000	905,000	△ 45,000	
③ 受取寄附金				
募金収益	200,000	84,000	116,000	
受取寄附金計	200,000	84,000	116,000	
④ 一般正味財産への振替額				
一般正味財産への振替額	△ 2,031,000	△ 2,992,958	961,958	
当期指定正味財産増減額	△ 970,000	△ 2,002,958	1,032,958	
指定正味財産期首残高	207,310,379	210,383,336	△ 3,072,957	
指定正味財産期末残高	206,340,379	208,380,378	△ 2,039,999	
III 正味財産期末残高	1,199,978,926	1,407,549,224	△ 207,570,298	

令和3年度 収支(正味財産増減)予算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(法人会計)

(単位 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減	備考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 事業収益				
受託事業収益	18,708,000	17,281,000	1,427,000	
事業収益計	18,708,000	17,281,000	1,427,000	
経常収益計	18,708,000	17,281,000	1,427,000	
(2) 経常費用				
① 管理費				
役員報酬	1,164,000	1,164,000	0	
給料手当	9,833,000	8,923,000	910,000	
賃金	725,000	977,000	△ 252,000	
期末勤勉手当引当金繰入額	1,092,000	790,000	302,000	
退職給付費用	784,000	352,000	432,000	
退職金	0	184,000	△ 184,000	
福利厚生費	1,761,000	1,600,000	161,000	
交際費	7,000	0	7,000	
会議費	3,000	0	3,000	
旅費交通費	37,000	25,000	12,000	
通信運搬費	156,000	161,000	△ 5,000	
減価償却費	714,000	687,000	27,000	
消耗品費	244,000	146,000	98,000	
光熱水料費	65,000	55,000	10,000	
修繕費	102,000	16,000	86,000	
印刷製本費	109,000	112,000	△ 3,000	
賃借料	634,000	588,000	46,000	
支払手数料	102,000	101,000	1,000	
保険料	74,000	62,000	12,000	
報償費	117,000	116,000	1,000	
租税公課	206,000	200,000	6,000	
支払負担金	5,000	3,000	2,000	
委託費	767,000	1,016,000	△ 249,000	
雑費	7,000	3,000	4,000	
管理費計	18,708,000	17,281,000	1,427,000	
経常費用計	18,708,000	17,281,000	1,427,000	
当期経常増減額	0	0	0	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	

科 目	予算額	前年度予算額	増減	(単位 円) 備考
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	0	0	0	
一般正味財産期首残高	0	0	0	
一般正味財産期末残高	0	0	0	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
III 正味財産期末残高	0	0	0	

令和3年度
資金収支予算書 内訳表

公益財団法人 大阪府文化財センター

令和3年度 資金収支予算書 内訳表

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合計	(単位 千円)
I 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
① 基本財産運用収入 基本財産利息収入 基本財産運用収入計	1,924	0	0	1,924	
	1,924	0	0	1,924	
② 特定資産運用収入 特定資産利息収入 特定資産運用収入計	9,201	0	0	9,201	
	9,201	0	0	9,201	
③ 会費収入 賛助会費収入 会費収入計	860	0	0	860	
	860	0	0	860	
④ 事業収入 入館料収入 受託事業収入 講座等参加料収入 書籍販売等収入 受託販売手数料収入 施設利用料等収入 博物館実習受入収入 講師料収入 事業収入計	11,360 621,949 426 3,500 300 960 205 223 638,923	0 18,708 0 0 0 0 0 0 18,708	0 0 0 0 0 0 0 0 0	11,360 640,657 426 3,500 300 960 205 223 657,631	
	11,360 640,657 426 3,500 300 960 205 223 657,631	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0	11,360 640,657 426 3,500 300 960 205 223 657,631	
⑤ 補助金等収入 国庫文化財保存修理補助金収入 府運営費補助金収入 府管理費補助金収入 助成金収入 補助金等収入計	30,015 7,067 47 250 37,379	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	30,015 7,067 47 250 37,379	
	30,015 7,067 47 250 37,379	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	30,015 7,067 47 250 37,379	
⑥ 寄附金収入 寄附金収入 募金収入 寄附金収入計	5,050 200 5,250	0 0 0	0 0 0	5,050 200 5,250	
	5,050 200 5,250	0 0 0	0 0 0	5,050 200 5,250	
⑦ 雑収入 受取利息収入 受取出向料収入 雑収入 雑収入計	3 310 307 620	0 0 0 0	0 0 0 0	3 310 307 620	
	3 310 307 620	0 0 0 0	0 0 0 0	3 310 307 620	
⑧ 他会計からの繰入金収入 法人会計からの繰入金収入 他会計からの繰入金収入計 事業活動収入計	1,802 1,802 695,959	0 0 18,708	△ 1,802 △ 1,802 △ 1,802	0 0 712,865	
	1,802 1,802 695,959	0 0 18,708	△ 1,802 △ 1,802 △ 1,802	0 0 712,865	
2. 事業活動支出					
① 事業費支出					
役員報酬支出 給料手当支出 賃金支出 退職給付支出	2,487 259,451 157,799 63,522	0 0 0 0	0 0 0 0	2,487 259,451 157,799 63,522	
	2,487 259,451 157,799 63,522	0 0 0 0	0 0 0 0	2,487 259,451 157,799 63,522	

(単位 千円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合計	備考
福利厚生費支出	61,253	0	0	61,253	
交際費支出	24	0	0	24	
会議費支出	8	0	0	8	
広告費支出	800	0	0	800	
旅費交通費支出	2,507	0	0	2,507	
通信運搬費支出	4,517	0	0	4,517	
棚卸資産購入費支出	2,500	0	0	2,500	
図書購入費支出	400	0	0	400	
消耗品費支出	18,900	0	0	18,900	
光熱水料費支出	28,408	0	0	28,408	
修繕費支出	2,246	0	0	2,246	
印刷製本費支出	16,078	0	0	16,078	
賃借料支出	11,790	0	0	11,790	
支払手数料支出	1,573	0	0	1,573	
保険料支出	1,836	0	0	1,836	
報償費支出	1,632	0	0	1,632	
租税公課支出	1,125	0	0	1,125	
負担金支出	752	0	0	752	
委託費支出	56,312	0	0	56,312	
分配金支出	45,310	0	0	45,310	
工事請負費支出	47,640	0	0	47,640	
委託販売手数料支出	200	0	0	200	
雑支出	764	0	0	764	
事業費支出計	789,834	0	0	789,834	
② 管理費支出					
役員報酬支出	0	1,164	0	1,164	
給料手当支出	0	10,505	0	10,505	
賃金支出	0	733	0	733	
福利厚生費支出	0	1,869	0	1,869	
交際費支出	0	7	0	7	
会議費支出	0	3	0	3	
旅費交通費支出	0	37	0	37	
通信運搬費支出	0	156	0	156	
消耗品費支出	0	244	0	244	
光熱水料費支出	0	65	0	65	
修繕費支出	0	102	0	102	
印刷製本費支出	0	109	0	109	
賃借料支出	0	634	0	634	
支払手数料支出	0	102	0	102	
保険料支出	0	74	0	74	
報償費支出	0	117	0	117	
租税公課支出	0	206	0	206	
負担金支出	0	5	0	5	
委託費支出	0	767	0	767	
雑支出	0	7	0	7	
管理費支出計	0	16,906	0	16,906	
③ 他会計への繰入金支出					
埋蔵文化財調査事業会計への繰入金支出	0	1,802	△ 1,802	0	
他会計への繰入金支出計	0	1,802	△ 1,802	0	
事業活動支出計	789,834	18,708	△ 1,802	806,740	
事業活動収支差額	△ 93,875	0	0	△ 93,875	

(単位 千円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合計	備考
II 投資活動収支の部					
1. 投資活動収入					
① 特定資産取崩収入					
退職給付引当資産取崩収入	63,522	0	0	63,522	
減価償却引当資産取崩収入	4,688	0	0	4,688	
固定資産購入等積立資産取崩収入	24,281	0	0	24,281	
財政調整引当資産取崩収入	1,977	0	0	1,977	
大規模改修積立資産取崩収入	24,558	0	0	24,558	
修繕積立資産取崩収入	100	0	0	100	
文化財普及基金取崩収入	200	0	0	200	
特定資産取崩収入計	119,326	0	0	119,326	
投資活動収入計	119,326	0	0	119,326	
2. 投資活動支出					
① 特定資産取得支出					
退職給付引当資産取得支出	22,929	0	0	22,929	
減価償却引当資産取得支出	205	0	0	205	
大規模改修積立資産取得支出	860	0	0	860	
修繕積立資産取得支出	200	0	0	200	
文化財普及基金取得支出	1	0	0	1	
特定資産取得支出計	24,195	0	0	24,195	
② 固定資産取得支出					
什器備品購入支出	2,300	0	0	2,300	
固定資産取得支出計	2,300	0	0	2,300	
投資活動支出計	26,495	0	0	26,495	
投資活動収支差額	92,831	0	0	92,831	
III 財務活動収支の部					
1. 財務活動収入					
財務活動収入計	0	0	0	0	
2. 財務活動支出					
財務活動支出計	0	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	0	
IV 予備費支出					
当期収支差額	1,340	0	0	1,340	
前期繰越収支差額	△ 2,384	0	0	△ 2,384	
次期繰越収支差額	3,294	0	0	3,294	
	910	0	0	910	

令和3年度 資金収支予算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(公益目的事業会計)

(単位 千円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	1,924	1,924	0	
基本財産運用収入計	1,924	1,924	0	
② 特定資産運用収入				
特定資産利息収入	9,201	10,697	△ 1,496	
特定資産運用収入計	9,201	10,697	△ 1,496	
③ 会費収入				
賛助会費収入	860	905	△ 45	
会費収入計	860	905	△ 45	
④ 事業収入				
入館料収入	11,360	9,250	2,110	
受託事業収入	621,949	672,921	△ 50,972	
講座等参加料収入	426	396	30	
書籍販売等収入	3,500	1,500	2,000	
受託販売手数料収入	300	50	250	
施設利用料等収入	960	355	605	
博物館実習受入収入	205	209	△ 4	
講師料収入	223	390	△ 167	
事業収入計	638,923	685,071	△ 46,148	
⑤ 補助金等収入				
国庫文化財保存修理補助金収入	30,015	10,602	19,413	
府運営費補助金収入	7,067	7,439	△ 372	
府管理費補助金収入	47	47	0	
助成金収入	250	9,927	△ 9,677	
補助金等収入計	37,379	28,015	9,364	
⑥ 寄附金収入				
寄附金収入	5,050	50	5,000	
募金収入	200	84	116	
寄附金収入計	5,250	134	5,116	
⑦ 雑収入				
受取利息収入	3	3	0	
受取出向料収入	310	531	△ 221	
雑収入	307	208	99	
雑収入計	620	742	△ 122	
⑧ 他会計からの繰入金収入				
法人会計からの繰入金収入	1,802	0	1,802	
他会計からの繰入金収入計	1,802	0	1,802	
事業活動収入計	695,959	727,488	△ 31,529	
2. 事業活動支出				
① 事業費支出				
役員報酬支出	2,487	2,487	0	
給料手当支出	259,451	271,179	△ 11,728	
賃金支出	157,799	162,726	△ 4,927	

(単位 千円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減	備考
退職給付支出	63,522	126,543	△ 63,021	
福利厚生費支出	61,253	64,984	△ 3,731	
交際費支出	24	0	24	
会議費支出	8	0	8	
広告費支出	800	0	800	
旅費交通費支出	2,507	928	1,579	
通信運搬費支出	4,517	3,892	625	
棚卸資産購入費支出	2,500	1,000	1,500	
図書購入費支出	400	167	233	
備品購入委託費支出	0	5,493	△ 5,493	
消耗品費支出	18,900	11,888	7,012	
光熱水料費支出	28,408	29,376	△ 968	
修繕費支出	2,246	1,368	878	
印刷製本費支出	16,078	7,769	8,309	
賃借料支出	11,790	11,233	557	
支払手数料支出	1,573	660	913	
保険料支出	1,836	1,321	515	
報償費支出	1,632	649	983	
租税公課支出	1,125	1,160	△ 35	
負担金支出	752	658	94	
委託費支出	56,312	77,850	△ 21,538	
分配金支出	45,310	47,283	△ 1,973	
工事請負費支出	47,640	9,591	38,049	
委託販売手数料支出	200	50	150	
雑支出	764	244	520	
事業費支出計	789,834	840,499	△ 50,665	
② 他会計への繰入金収入				
法人会計への繰入金収入	0	4,417	△ 4,417	
他会計への繰入金収入計	0	4,417	△ 4,417	
事業活動支出計	789,834	844,916	△ 55,082	
事業活動収支差額	△ 93,875	△ 117,428	23,553	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
① 特定資産取崩収入				
退職給付引当資産取崩収入	63,522	132,028	△ 68,506	
減価償却引当資産取崩収入	4,688	1,094	3,594	
調査事務所用地取得積立資産取崩収入	0	80,066	△ 80,066	
固定資産購入等積立資産取崩収入	24,281	0	24,281	
財政調整引当資産取崩収入	1,977	0	1,977	
大規模改修積立資産取崩収入	24,558	6,426	18,132	
修繕積立資産取崩収入	100	917	△ 817	
文化財普及基金取崩収入	200	0	200	
特定資産取崩収入計	119,326	220,531	△ 101,205	
② 敷金・保証金戻り収入				
敷金戻り収入	0	130	△ 130	
敷金・保証金戻り収入計	0	130	△ 130	
投資活動収入計	119,326	220,661	△ 101,335	
2. 投資活動支出				
① 特定資産取得支出				
退職給付引当資産取得支出	22,929	20,497	2,432	
減価償却引当資産取得支出	205	28,637	△ 28,432	
中部調査事務所撤去費用準備資金取得支出	0	80,066	△ 80,066	
大規模改修積立資産取得支出	860	905	△ 45	
修繕積立資産取得支出	200	84	116	
文化財普及基金取得支出	1	1	0	
特定資産取得支出計	24,195	130,190	△ 105,995	
② 固定資産取得支出				
什器備品購入支出	2,300	1,094	1,206	
固定資産取得支出計	2,300	1,094	1,206	

(単位 千円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減	備考
投資活動支出計	26,495	131,284	△ 104,789	
投資活動収支差額	92,831	89,377	3,454	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	1,340	0	1,340	
当期収支差額	△ 2,384	△ 28,051	25,667	
前期繰越収支差額	3,294	31,345	△ 28,051	
次期繰越収支差額	910	3,294	△ 2,384	

令和3年度 資金収支予算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(法人会計)

(単位 千円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 事業収入				
受託事業収入	18,708	17,281	1,427	
事業収入計	18,708	17,281	1,427	
② 他会計からの繰入金収入				
埋蔵文化財調査事業会計からの繰入金収入	0	4,417	△ 4,417	
他会計からの繰入金収入計	0	4,417	△ 4,417	
事業活動収入計	18,708	21,698	△ 2,990	
2. 事業活動支出				
① 管理費支出				
役員報酬支出	1,164	1,164	0	
給料手当支出	10,505	9,738	767	
賃金支出	733	977	△ 244	
退職給付支出	0	5,485	△ 5,485	
福利厚生費支出	1,869	1,730	139	
交際費支出	7	0	7	
会議費支出	3	0	3	
旅費交通費支出	37	25	12	
通信運搬費支出	156	161	△ 5	
消耗品費支出	244	146	98	
光熱水料費支出	65	55	10	
修繕費支出	102	16	86	
印刷製本費支出	109	112	△ 3	
賃借料支出	634	588	46	
支払手数料支出	102	101	1	
保険料支出	74	62	12	
報償費支出	117	116	1	
租税公課支出	206	200	6	
負担金支出	5	3	2	
委託費支出	767	1,016	△ 249	
雑支出	7	3	4	
管理費支出計	16,906	21,698	△ 4,792	
② 他会計への繰入金支出				
埋蔵文化財調査事業会計への繰入金支出	1,802	0	1,802	
他会計への繰入金支出計	1,802	0	1,802	
事業活動支出計	18,708	21,698	△ 2,990	
事業活動収支差額	0	0	0	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	

(単位 千円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減	備考
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	0	0	0	
当期収支差額	0	0	0	
前期繰越収支差額	0	0	0	
次期繰越収支差額	0	0	0	